



第6章 地域別の緑のまちづくり

緑の将来像の5つの基本方針及び16の施策を踏まえて、14の地域及び地区ごとに、緑に関する現況と課題から、緑に関する方針として目標と施策・事業を展開します。

地域・地区名	緑のまちづくりの目標
1 中央地区	にぎわいと、ふれあいの緑のまちづくり
2 上町地区	海に開かれ歴史にふれあう緑のまちづくり
3 鴨池地区	海に開く新しい緑のまちづくり
4 城西地区	安心して暮らし文化を育む緑のまちづくり
5 武・田上地区	穏やかな暮らしを育む緑のまちづくり
6 谷山北部地区	新たな生活文化を創造する緑のまちづくり
7 谷山地区	いきいきとした活力を育む緑のまちづくり
8 伊敷地域	自然や農業と調和する緑のまちづくり
9 吉野地域	ゆったりとした暮らしを築く緑のまちづくり
10 桜島地域	世界の桜島 安全で元気あられる緑のまちづくり
11 吉田地域	心豊かで活力にみちたやすらぎのある緑のまちづくり
12 喜入地域	自然のゆとりとまちの魅力が共存する緑のまちづくり
13 松元地域	みどりと心のオアシスを築く緑のまちづくり
14 郡山地域	うるおいとやすらぎを感じる緑のまちづくり



6-1 中央地区

(1) 地区の概要

◆地区の状況

中央地区は、本市のほぼ中央部に位置し、甲突川左岸の天文館・いづろ地区を含む平坦部市街地と臨海部の新港区、甲突川右岸の鹿児島中央駅東口の中央町、上之園町、上荒田町で構成されています。



◆地区の人口

中央地区の人口は、2005年国勢調査において約3万7千人で、2000年から6.4%と本市で最も人口増加し、人口密度も約95人/haと本市で最も高い地区となっています。また、人口の高齢化率は22.4%と全市平均20.5%に比べてやや高くなっています。

(2) 緑に関する現況と課題

◆地区の特性

南の拠点都市の中心地として古くから商業業務機能の集積が図られているとともに、明治維新のまち加治屋町周辺や市街地中心を流れる甲突川などの歴史的・自然的資源も有しています。

◆緑の現況

中央地区の都市公園は16箇所あり、一人当たりの公園面積は5.4㎡で、本市の平均7.3㎡比べて低い状況にあります。主な公園には、天文館公園、共研公園、平田公園、甲突川左岸緑地などがあり、市街地の憩いの場である中央公園やみなと大通り公園などが含まれています。

本地区の緑被率は4.4%で、本市のなかで最も低い状況にあります。

また、都心部における身近な河川空間である甲突川が錦江湾に注いでいます。

◆緑の課題

本市のなかで、緑被率が最も低く、市民意識調査でも緑が少ないとの意見が48%と多くなっており、緑の保全や緑化を進めていく必要があります。

また、本地区は、商業地域が大部分であるために建ぺい率が高く、空地が少ない状況にあることから、街路樹の充実や民間緑化などを推進していくことが望まれています。

さらに、鹿児島の陸の玄関である鹿児島中央駅から天文館・いづろ、本港区への歩行空間や周遊空間づくりが必要で、全国都市緑化フェアのまちなか会場として市民との協働で盛り上がった気運を持続し、花と緑のまちづくりを推進する必要があります。

※高齢化率平均 20.5%

※一人当たりの公園面積平均 7.3%

(この公園面積は都市公園で、公共施設緑地は除く)

※緑被率の平均 67.6%



● 中央地区の緑のまちづくりの資源と問題点等の分布図



◆ 地域の資源

自然	①市街地一体となった貴重な河川空間・緑地である甲突川と河畔 ②城山周辺の市街地の環境に潤いを与える一団の樹林地
公園緑地	③潤いと安らぎの場・歩行者ネットワークの核となる天文館公園 ④市街地内の憩いの場であるみなと大通り公園 ⑤鹿兒島中央駅近くの憩いの場である共研公園
公共的な施設等	⑥鹿兒島の風土・歴史・人物を紹介する維新ふるさと館 ⑦史跡の集中する加治屋町 ⑧歴史を伝えるザビエル公園・ザビエル教会 ⑨中心市街地に隣接し、歴史性を持った空間である照国神社 ⑩歴史的なおもむきを残す石造倉庫群
その他	⑪鹿兒島中央駅から錦江湾、桜島方向へ伸びる 景観軸にもなるナポリ通り・パース通り

凡例

	公園等
	公共的な施設等
	中心商業業務地
	複合住宅市街地
	住工共存市街地
	産業物流・港湾業務地
	地区・地域界





(3) 中央地区の緑に関する方針

◆目標

様々な人々が集まる南の広域拠点地区としての
「にぎわいと、ふれあいの緑のまちづくり」

中央地区は、本市の陸の玄関口であり、さまざまな人々が集まる交流拠点地区であり、鹿児島中央駅周辺から天文館・いづろ、本港区、鹿児島駅周辺を連携する緑の軸の形成を目指します。また、地区の緑の保全や緑化を推進して、本計画を先導するために緑化重点地区として指定します。

◆施策・事業

①「協働により緑を守り育む仕組みの拡充」に関する施策

施策 1 市民による緑化活動の推進

○中央地区では「海と陸を結ぶ 南の“歓・交” 拠点都市の創造」としての鹿児島市中心市街地活性化を推進します。九州新幹線全線開通や郊外型大規模商業施設の出店などを踏まえて、本市のまちの顔である中心市街地の活性化を推進し、市全体のにぎわい創出を目指すものです。

中心市街地活性化事業は、市民・事業者・関係行政機関等との一体となった取り組みを行っており、市民や事業者との協働は不可欠です。この事業と連携し、にぎわい創出から市民・事業者との緑化活動を促進します。

②「自然環境資源を次世代へ継承」に関する施策

施策 9 身近な緑の保全

○都心部にある身近で貴重な河川空間の甲突川の河川環境を保全し、左右岸の緑地の維持保全を推進します。

③「鹿児島らしい公園緑地を目指して機能の充実」に関する施策

施策 10 緑の拠点となる公園の再整備促進

○中心市街地内の広大なJT跡地（約 6.9ha）は、立地特性を十分に踏まえて、市民福祉と都市機能向上及び中心市街地のにぎわいの創出と活性化のために必要な事業であり、市立病院及び交通局施設などの導入が進められています。

交通局や市立病院の間に挟まれた敷地（約 1.1ha）を、地域住民や入院患者など気軽に散策できるよう



JT 跡地利用計画



に「緑豊かな空間の創造」を重視した整備を進めます。

- 天文館公園は、中心市街地における潤いと安らぎの場、にぎわいと活力をもたらすためのイベント等に対応できる場としての整備を図ります。
- 清滝川のふたを撤去し、親水性を持たせた歩道を設け、にぎわいと人々が憩える緑の空間を整備します。

④「身近な緑の育成・創出」に関する施策

施策 13 身近な緑の緑化

- 現状として緑が少ないことから、緑化重点地区に指定し緑化を推進していきます。
- 緑被率の少ない地区であり、民間施設の屋上・壁面緑化を促進します。

施策 14 水と緑のネットワークづくり

- 鹿児島中央駅周辺から天文館・いづろ、本港区、鹿児島駅周辺の連携する緑の軸と、市電軌道敷緑化、甲突川沿いの遊歩道、ナポリ通り、パース通り、歴史ロードなどを結びつけ、水と緑のネットワークの形成を推進します。
- 鹿児島県事業として、甲突川の親水性を高めるために、高麗町の武之橋から小野2丁目の岩崎橋までの区間を整備します。
甲突川を、市民や観光客との憩いの場となる水辺空間となるように、対岸に渡ることができる飛び石の設置、護岸のライトアップ、早瀬の創出による水生生物の生息空間整備などを行います。リバーサイドウォーク整備事業を促進し、本市の進める甲突川沿いの緑のまちづくりとの連携を図ります。
- 加治屋町周辺の甲突川沿いの緑地には、維新ふるさと館・歴史ロード“維新ふるさとの道”などが整備されています。この歴史ロード“維新ふるさとの道”は、市民や観光客が歴史を感じながら散策できる空間で、観光スポットでもあり、今後はリバーサイドウォーク整備事業などと連携した活用を図っていきます。
- 地場産材を活用した歩道整備による鹿児島らしい個性的な空間構成の形成を目指します。また、街路のイチョウ並木の維持管理やオープンスペースの公園緑地利用を促進します。



⑤「緑や自然への関心を育み、成熟した都市へ」に関する施策

施策 15 公共公益施設の緑化推進

- 鹿児島中央駅周辺から天文館・いづろ、本港区、鹿児島駅周辺の連携する緑の基軸を形成します。また、市電軌道敷緑化により緑の回廊の形成を図り、夜間のライトアップにより魅力ある夜間景観形成を進めます。
- 鹿児島中央駅周辺の広域交流拠点ゾーンの環境空間形成として、桜島や斜面緑地への眺望や地域の資源を活用し、鹿児島らしい個性的な空間構成の形成を目指します。また、街路樹の維持管理などを推進します。
- 公共施設の屋上・壁面緑化を推進します。
- 小・中学校の校庭の緑化を推進します。

施策 16 成熟した都市へ

- 九州新幹線全線開通に合わせて第28回全国都市緑化フェアを開催します。市管理の花壇の植栽デザイン募集とその管理を市民と行うなどの都市緑化フェアの気運を高めます。
- 鹿児島中央駅、中央公園、みなと大通り公園などに立体花壇などを配置し、都市緑化フェアを推進します。
- 都市緑化フェア後も都市緑化を推進し、花いっぱい運動などにより持続的な都市緑化に努めます。
- 都市緑化フェアを契機に、緑に関するボランティア活動を促進します。



● 中央地区の緑の方針図

“様々な人々が集まる南の広域拠点地区としての「にぎわいと、ふれあいの緑のまちづくり」”

